

第2部

葛飾・夢と誇りのプロジェクト等

第1章 葛飾・夢と誇りのプロジェクト

第2章 SDGsの実現に向けて

第1章 葛飾・夢と誇りのプロジェクト

1 夢と誇りあるふるさと葛飾の実現に向けて

今後、本区が、多くの人から住んでみたい、住み続けたいと思われる魅力的なまちとして発展していくためには、安全・安心な区民生活に向けた政策、まちの利便性・快適性の向上に向けた政策、子育て・教育環境の充実に向けた政策など区民ニーズの高い政策をはじめ、区政を取り巻く環境の変化や地域課題に即応した政策を着実に展開していく必要があります。

そのため、中期実施計画では、基本計画で掲げた14の「葛飾・夢と誇りのプロジェクト」について社会経済状況等を踏まえて内容をより深化させるとともに、新たに2つのプロジェクトを追加しました。重点的かつ戦略的な取組を進めるとともに、これから育てていく事業や、現状の政策・施策体系を横断して取り組むべき事業の展開を図り、いつまでも幸せに暮らせる「夢と誇りあるふるさと葛飾」を実現していきます。

2 葛飾・夢と誇りのプロジェクト

葛飾・夢と誇りのプロジェクト

- 1 協働推進プロジェクト
- 2 「健康長寿のまち、葛飾」推進プロジェクト
- 3 共生社会実現プロジェクト
- 4 「子育てするなら、葛飾で」推進プロジェクト
- 5 学力・体力向上プロジェクト
- 6 危機対応力向上プロジェクト
- 7 安全・快適な交通環境実現プロジェクト
- 8 「ゼロエミッションかつしか」実現プロジェクト
- 9 花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト
- 10 産業応援プロジェクト
- 11 「観光・文化のまち葛飾」推進プロジェクト
- 12 公共施設の魅力向上プロジェクト
- 13 かつしかファンド活用プロジェクト
- 14 スマートかつしか実現プロジェクト
- 15 葛飾かわまちづくりプロジェクト
- 16 私学事業団総合運動場活用プロジェクト

葛飾・夢と誇りのプロジェクト関係図

葛飾区中期実施計画	葛飾・夢と誇りのプロジェクト	政策																				
		性・人権・平和・多様	健康	医療	衛生	低所得者福祉・地域福祉・支援	高齢者支援	障害者支援	子ども・家庭支援	学校教育	地域教育	生涯学習	スポーツ	地域街づくり	防災・生活安全	交通	公園・水辺	環境	産業	観光・文化	地域活動	
	1 協働推進プロジェクト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	2 「健康長寿のまち、葛飾」推進プロジェクト		●	●	●		●	●	○	●	○		●			○	○	○		○	○	
	3 共生社会実現プロジェクト	●	●		○	●	●	●	○					○	○	○			○		○	○
	4 「子育てするなら、葛飾で」推進プロジェクト	○	○	○	○	○		○	●	○	○	○	○	○		○					○	○
	5 学力・体力向上プロジェクト	○	○		○	○		○	○	●	●	○	○					○				
	6 危機対応力向上プロジェクト	○		○	●	○	○	○	○					●	●	○	●					○
	7 安全・快適な交通環境実現プロジェクト	○	○					○	○	○	○				○	●		○		○	○	○
	8 「ゼロエミッションかつしか」実現プロジェクト		○							○	○				○	○	○	○	○	○		
	9 花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト							○	○					○			●	●	○	○	○	○
	10 産業応援プロジェクト	○	○		○	○	○	○	○	○	○				○			○	●			
	11 「観光・文化のまち葛飾」推進プロジェクト	○			○					○	○	●		○			○		●	●		○
	12 公共施設の魅力向上プロジェクト	区民サービス向上改革プログラム																				
	13 かつしかファンド活用プロジェクト																					
	14 スマートかつしか実現プロジェクト																					
	15 葛飾かわまちづくりプロジェクト	○	○					○	○	○				●	○	○	○	○	○	○	○	○
	16 私学事業団総合運動場活用プロジェクト	○	○					○	○	○				●	●	○		○	○	○	○	○
		持続可能な行財政運営の推進 区民サービスの向上 SDGsの実現																				

● : 直接関連のある政策

○ : 関連のある政策

1 協働推進プロジェクト ～広げる、深める、協働によるまちづくり～

地域に集う多様な主体との協働によるまちづくりを進めるため、区では、職員出前講座の開催や協働事例集の作成、協働事例映像の制作など、区の現状や取組、協働による活動を広く紹介することにより、協働意識の醸成を図ってきました。また、地域活動の功績を称える協働まちづくり表彰を実施し、活動意欲の向上を図ったほか、職員研修の実施や職員向け協働推進ガイドラインの改定・運用により、職員の人材育成にも努めてきたところです。

一方で、高齢化による地域活動の担い手不足や外国人区民の増加などは引き続き課題であり、多様化する地域ニーズに対応していくためには、地域活動の担い手の発掘・育成、外国人区民の地域活動への参画を進めていく必要があります。

今後は、協働を更に広げ、深めていくため、区の実践や地域で行われている活動など区政や地域の魅力を、広報メディアを効果的に活用して広く発信することで、地域への思いを育み、これまで以上に地域に集う多様な主体の協働意識・郷土意識を高めていきます。また、SNS[※]の活用やイベントの実施を通して団体等同士の交流の輪の拡大を図り、協働の可能性を広げていきます。

さらに、地域における協働の活動が安定的かつ持続的に発展し、地域活動の担い手不足の解消に資するよう、協働の新たな担い手の育成や、活動意欲の向上につなげていけるような仕組みと環境づくりを検討していきます。

1 協働意識・郷土意識を醸成する

「まちをより良くしよう」とする活動の原動力となるのは、「郷土を愛し、大切にしたい気持ち」です。こうした気持ちを育むため、区では引き続き、職員出前講座の開催や協働事例集の作成、協働事例映像の制作などにより区の現状や取組、協働による活動を広く紹介することで、区民等の地域への思いを育み、協働意識の醸成を図ります。

また、区民等と学び合いながら、共に地域社会の未来を考えていけるよう、協議会、意見交換会、勉強会、交流会などの様々な機会を通じて、地域の課題や資源を共有し、課題解決や地域の魅力を高めるための活動につなげていきます。

2 協働を広げる・深める

地域活動に興味がある方や地域活動に有益な知識・技術を持つ方が、協働の担い手として活躍できるよう、区の実践や地域で行われている活動など区政や地域の魅力について、広報かつしかや区公式ホームページ、SNS等を活用して発信し、協働の活動に参加する「きっかけ」づくりを進めます。

また、協働まちづくり表彰の実施により地域活動の功績を称えることで、活動意欲の更なる向上を図るとともに、団体等のイメージアップにつなげます。

さらに、様々な協働の活動に取り組む区民や団体等が、情報を共有し、連携できるよう、令和4年度にフェイスブックに移行した「葛飾みんなの協働サイト」を効果的に活用し、団体等同士の交流の輪の拡大を図り、つながりを一層深めながら協働の取組を活発化させていきます。

加えて、地域活動の担い手不足の解消に向けて、社会福祉協議会等の関係機関と意見交換を

行いながら、新たに活動の担い手を求める団体等と、活動に参加したい人とを結びつける仕組みを検討します。

3 協働の活動を支える

地域における協働の活動が安定的かつ持続的に発展できるよう、地域の課題解決に向けた自治町会の取組を支援する新たな助成制度や、区職員が自治町会と地域団体との連携促進をコーディネートする支援体制を新たに構築し、地域コミュニティの中心を担う自治町会を中心に地域に集う多様な主体との協働を促し、地域力の更なる向上を図ります。

2 「健康長寿のまち、葛飾」推進プロジェクト ～生涯を通じた、切れ目のない健康づくり～

人口減少が見込まれる中、いつまでも、誰もがいきいきと健やかに、幸せや喜びを感じながら暮らせるまちづくりを進めるためには、区民が自ら健康を意識し、健康づくりに取り組める環境整備が必要です。

区はこれまで、区民が自らの健康を意識し、健康づくりに取り組むきっかけを作るため、様々な健康診査事業を実施し、その受診率の向上を図ってきました。また、運動、食生活の改善、生活習慣の見直しなどにつなげるため、健康づくり支援事業、介護予防^参事業、スポーツ事業、企業と協働した働く世代の健康づくり支援などに取り組んできました。

今後は、デジタル技術を活用し、区民一人一人に最適な活動の提案や中長期的な健康データの管理などができる仕組みを構築します。また、介護予防事業やスポーツ等、区内各所で行われている区民の健康に寄与する様々な活動と連携しながら、区民が総合的に健康増進に取り組める環境を整備します。

これらの取組を通じて、区民が自ら健康を意識して健康づくりに取り組める環境を整備し、誰もがいきいきと健やかに、幸せや喜びを感じながら暮らせるまちづくりを積極的に推進していきます。

1 デジタル技術を活用した区民と事業者の健康活動の促進

デジタル技術を活用し、区民の健康や生活習慣に関するデータを自動で収集・分析・評価でき、区民一人一人に最適な活動の提案やフィードバック、中長期的な健康データの管理などができる仕組みを構築するとともに、区民の健康づくりの成果に対してインセンティブを付与することで、区民が自らの健康を意識し、健康づくりに取り組めるようにします。また、区内事業者の健康経営^参を促進するとともに、介護予防事業やスポーツ、区内各所で行われている健康に寄与する様々な活動と連携しながら、区民の健康活動を促進します。

2 高齢者のフレイル対策

加齢に伴い、筋力、認知機能の低下や食生活などの様々な課題や不安を抱えやすい高齢者がいつまでも元気で長生きできるよう、保健、医療、介護のそれぞれの分野が協働し、身体的、精神的、社会的な特性を踏まえ、高齢者一人一人の状況に応じた介護・フレイル^参対策を進め、健康長寿を支援します。

3 あらゆる年代の区民がスポーツに親しむ環境づくり

健康寿命延伸と健康格差の縮小を目指し、子どもから高齢者、障害のある方など、全ての区民が自主的・積極的に日常生活の中に運動習慣を取り入れることができる環境を整備していきます。

また、これまで運動に関わる機会が少なかった方にも興味・関心を持ってもらうため、保健指導事業等と連携するほか、区で実施される様々なイベント等の機会を活用し、それぞれのライフスタイルや健康課題に合わせたスポーツ事業を提案していきます。

3 共生社会実現プロジェクト ～地域に受け入れ、地域で支え合う～

区では、高齢・障害・子ども・生活困窮等、世帯の様々な悩みを総合的に受け止め、その人らしく地域で暮らせるよう、「くらしのまるごと相談課」を設置し、誰もが取り残されない包括的な支援体制の整備を進めてきました。また、日本人と外国人が日本語でコミュニケーションを図ることのできる環境づくりを進めるため、「やさしい日本語[※]講座」や「日本語教室入門編」を実施するほか、「外国人向け生活ガイドブック」を108言語に翻訳対応するなど多文化共生に向けた取組を進めてきました。

今後は、くらしのまるごと相談課を中心に、複合的な課題や制度の狭間の課題を抱える世帯に対し支援が行き届くよう、関係機関等の連携強化による対象者の掘り起こし、ニーズに応じた新たな支援策等の検討、地域団体等の活動支援などを進めていきます。また、介護現場のDX[※]化や福祉人材における外国人の活用促進を進め、福祉サービスの安定供給を目指していきます。さらに、今後の外国人区民の増加を見据え、日本語の習得機会に併せた日本の文化、生活習慣などの理解を促進する機会を創出することで、同じ地域に暮らす一員として、互いに心を通わせながら暮らせるまちづくりを進めます。

1 地域共生社会に向けた包括的な支援体制の強化

くらしのまるごと相談課を中心に、中高年のひきこもりや未就労が起因となる「8050問題」、育児と介護のダブルケア、ヤングケアラー[※]など複雑化・複合化した課題を抱える世帯や制度の狭間にある世帯等支援を必要とする方に対して、相談窓口の設置、アウトリーチ[※]（訪問支援）、伴走支援、支援関係機関による連携支援、地域参加支援等を実施します。支援事例を積み重ねることで、全庁の部署や地域の支援関係機関が連携し、誰もが取り残されない包括的な支援体制を強化していきます。

2 福祉現場・人材への支援強化

介護現場で働く従業員の負担軽減や業務効率化の向上を図るため、小規模施設でも利用しやすいデジタル技術を活用した支援を行い、介護現場のDX化を推進していきます。また、福祉人材を確保・定着させ、安定的に福祉サービスを提供できるようにするため、外国人介護職員の雇用にかかる採用・育成・定着の支援や、合同就職相談会イベントの実施による就業あっせん支援などに取り組んでいきます。

3 多文化共生に向けた取組の充実

外国人区民とのコミュニケーションを円滑にし、日本人区民との相互理解を進めるため、「やさしい日本語」の普及に取り組みます。また、日本語を習得する機会を充実させるとともに、互いの文化・習慣を理解し合う機会を提供することで、外国人区民にも暮らしやすい環境づくりを推進し、地域に愛着をもってもらえるようにします。さらに、語学ボランティアを地域に派遣し、地域活動やイベントに外国人区民が参加しやすい体制を整えていきます。

4 誰もが自分らしく暮らせる地域社会づくり

全ての人々が多様性を認め合い、自分を大切にすることのできる地域社会を築くとともに、誰もが自由に活動し、自己選択・自己決定できるユニバーサルデザイン[※]の理念に根差したまちをつくりまします。

4 「子育てするなら、葛飾で」推進プロジェクト ～子育て・子育て支援の充実～

区では、子育て支援の拠点施設として子ども未来プラザ[※]を整備するとともに、ゆりかご面接[※]や産後ケア、乳幼児健診の拡充などにより、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援（葛飾区版ネウボラ[※]）を積極的に推進してきました。また、保護者のライフスタイルの変化に応じた保育需要への対応として、延長保育や預かり保育ができる保育施設・幼稚園の拡充、学童保育クラブの設置やわくわくチャレンジ広場[※]の充実を進めてきました。さらに、令和5年10月には児童相談所を開設し、子どもの最善の利益の確保と若者の社会的な自立への支援を実施してきたところです。

今後も、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援を実現していくため、子ども未来プラザでの相談体制を拡充し保護者の子育ての不安や孤立感の軽減を図るほか、社会の動向を踏まえつつ保護者のニーズに合わせた多様な保育サービスを更に充実させるとともに、質の高い保育環境を実現していきます。あわせて、子どもが就学後も安全・安心に放課後等を過ごしながらか多様な体験ができる環境整備を進めます。

さらに、令和6年3月に策定する「子ども・若者基本構想」を基に、子ども・若者を主体とした視点や子育て支援の視点を区政全般に反映したまちづくりを推進し、子育て世代を中心とした多くの人から「住んでみたい、住み続けたい」と思われる魅力的なまちづくりを進めていきます。

1 切れ目のない子ども・子育て支援

ゆりかご面接や産後ケアの充実、子どもを持ちたい人への支援などを行い、親と子の心身の健康を増進します。また、SNS[※]等を活用した子育て情報のタイムリーな提供、子どもの育ちや養育について地域に相談できる手段の拡充を進め、子育てに係る不安感や孤独感の軽減を図ります。

こうした取組を充実させ、妊娠・出産、子育て、教育に係る各分野の関係機関の連携を一層深めることで、妊娠期から子どもが就学し、成人するまでの切れ目ない支援（葛飾区版ネウボラ）を実施していきます。

2 質の高い多様な保育サービスの提供

就園児・未就園児を問わず、希望に応じて保育施設を利用できる多様な保育サービスを提供し、全ての世帯が安心して子育てができる環境を整備します。また、保育人材を安定的に確保し、教育・保育の質の向上を積極的に図ります。

3 放課後等の子ども支援

就学後には、家庭環境にかかわらず、全ての児童が安全・安心に放課後等を過ごせるよう小学校内を活用して学童保育クラブやわくわくチャレンジ広場を充実します。安全・安心な環境の中で多様な体験や活動ができ、子どもたちの好奇心や可能性を最大限に広げられる環境整備を行います。

4 子ども・若者の最善の利益の確保

「葛飾区子どもの権利条例」や「子ども・若者基本構想」に基づき、子ども・若者の意見を聴いて、施策に反映する仕組みを構築し、子どもの意見が尊重される環境づくりを進めます。また、虐待等への問題に対しては、子ども総合センターと児童相談所が、相談対応や保護、予防策の拡大や社会的養護としての里親委託推進などに幅広く取り組み、区の全ての子どもの権利を守り自分らしく安心して成長できる環境を整備します。

5 学力・体力向上プロジェクト

～これからの時代を生き抜く学力・体力を身に付ける～

区では、各小・中学校において、校長による学校の現状に応じた「学力向上プラン」の実施や、全ての学校で共通して取り組む「葛飾スタンダード」の実施、幼稚園や保育園と小学校との連携を深める幼保小連携教育の充実など、子どもたちの学力と体力の向上に向けた取組を展開してきました。

現在、グローバル化や情報化など急激な社会的変化が進む中、学習指導要領^参に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現、プログラミング教育の実施、外国語活動・外国語の授業など新たな学習活動への対応を進めています。

今後、学力の定着に加え、子どもたちがこれからの時代に求められる資質や能力を身に付けられるよう、一人一人に応じた学習を支援しながら、総合的に学力向上を図ります。また、少子化や指導者不足の課題に直面する中、子どもの運動機会を確保するため部活動の地域移行を推進し、生涯にわたって運動やスポーツに親しむとともに、子どもの運動能力や技術を向上させていきます。

子どもたちが安心して学習に取り組むことができる環境の整備、タブレット端末やデジタル教材などを活用した自学自習の場の整備を行い、自ら学ぶという気持ちを尊重し、多様な学習機会を提供していくことで、一人一人の個性を大切に教育を推進していきます。

1 総合的な学力の向上

子どもたちが意欲的に学習に取り組むことができるように、学習センター（学校図書館）の整備や、自学自習シートの活用、学習指導員・学習指導補助員による指導の充実を図ります。あわせて、タブレット端末やデジタル教材などのICT^参を活用した自学自習を推進することで、誰もがいつでもどこでも自発的・積極的に学びに取り組める環境を整備します。また、モデル地域で映像教材を導入し、個別最適な学びを充実させていきます。

2 体力の向上

体力の一層の向上を目指し、引き続き「かつしかっ子体力アッププログラム」に取り組むとともに、体力向上推進校の効果のある取組を区内の学校で共有します。また、低年齢時期から運動を好意的に捉え、意欲的に運動に取り組む子どもを育成するために、小学校低学年の取組を充実させます。また、運動への関心が低くなりやすい中学生に対しては、自身の健康や体を動かすことに関心をもつ機会を設けていきます。

3 一人一人を大切に教育の推進

日本語の習得が必要な子ども、発達に課題のある子ども、不登校の子どもなど、一人一人の子どもたちの状況に応じた支援・指導を行うため、特別支援教室などの整備、日本語ステップアップ教室の運営などを行っていきます。また、学校へ通うことのできない子どもが学校以外の施設へ通学した場合の取扱いを整理した「葛飾区不登校児童・生徒スタンダード」を活用していくとともに、ICTを活用した学習環境を整備して、全ての子どもが安心して学習に取り組むことができる環境を整備していきます。

6 危機対応力向上プロジェクト ～あらゆる危機に備える～

近年、大地震などの自然災害による被害が全国各地で頻発しています。令和4年5月には、首都直下地震の被害想定が10年ぶりに見直されるなど、今後マグニチュード7程度の地震が発生する可能性が高まる中、頻発化・多様化する災害への対策の強化が求められています。

区はこれまでも、首都直下地震や大規模水害に備えた建築物の耐震化、液状化対策の助成、木造住宅密集地域の解消、防災活動拠点となる公園の整備、浸水対応型市街地構想を踏まえた公共施設の整備、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行による医療負担を防ぐための高齢者のインフルエンザ予防接種の助成など様々な危機対応力向上の取組を進めてきました。

また、区内の犯罪発生件数は、減少傾向が続いておりますが、高齢者等をターゲットにした強盗事件が全国で多発するなど、防犯対策の取組の強化が求められています。

今後も、頻発化・多様化する危機への対応力の強化を図るため、デジタル技術を活用した効果的・効率的な防災体制を推進していくほか、災害時要配慮者が安心して避難行動を行えるよう、支援体制を強化していきます。また、個人宅を対象とした防犯設備の導入に対する支援制度を構築し、防犯対策を強化します。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時の経験を踏まえ、医療機関等との連携体制構築、衛生用品の計画的な備蓄・管理、感染症拡大時の保健所体制の強化により、感染症対策を進めていきます。

これらの取組を通じて、地震や水害などをはじめとするあらゆる危機から生命・身体・財産が守られるよう、区民や事業者と協働して地域の現状や特性に応じた対策を講じ、いつまでも安全・安心に暮らし続けられるまちづくりを進めます。

1 頻発化・多様化する危機に備えるための防災DXの推進

近年、大規模災害が頻発している状況を踏まえ、予測不能な災害への備えとして、デジタル技術を活用した効率的な防災体制を実現する防災DX[※]の取組を推進していきます。防災DXを推進することで、迅速な情報収集・発信による二次災害の被害減少や医療所・避難所開設情報などの必要な情報の迅速な共有体制を実現します。さらに、災害備蓄品の管理をデジタル化することにより、リアルタイムでの効率的な避難所運営・受援体制を構築していきます。

2 災害時要配慮者支援体制の強化

災害時要配慮者の方々が、災害時に必要な情報を把握し、安心して避難行動、避難生活が送れるよう、地域での見守りの仕組みづくりや避難生活時における支援体制の強化などに取り組んでいきます。また、自力での避難が困難な方に対しては、個別避難計画が実践的なものとなるよう、地域の方や事業者との協力体制のもと、適宜、策定・見直しを進めていきます。

3 あらゆる危機に備えるまちづくりの推進

近年、発生頻度が増加している集中豪雨や地震、台風などの様々な災害に備えるまちづくりを推進しています。特に、大規模水害に対する備えとしては、浸水対応型市街地の形成を目指し、浸水に対応した公共施設等の整備促進、避難者や物資の輸送と復旧・復興の拠点となる高台空間の整備を引き続き推進します。

4 防犯対策の強化

個人宅向けの防犯設備助成制度を新たに構築し、既存の防犯カメラ助成と併せて、区が管理する街頭防犯カメラの設置を進めることで、自助・共助・公助による地域の防犯対策を強化し、区民の生命・身体・財産を守ります。

5 感染症対策の強化

新興感染症の感染拡大に備えるため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時の経験を踏まえ、医療機関等との連携を進めて協働により危機管理体制を強化するほか、疫学調査等支援システムなどの導入による保健所業務のデジタル化や必要な衛生用品の計画的な備蓄・管理を進めます。

また、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行やそれに伴う医療負担を軽減するために、インフルエンザ予防接種の費用助成を行います。さらに、様々な感染症等の蔓延を防止するため、予防接種を受けやすい体制整備を進めます。こうした取組を通じて総合的に感染症対策の強化を推進します。

7 安全・快適な交通環境実現プロジェクト ～区民の生活の「足」を支える～

公共交通は、高齢者など移動に困難を抱える方をはじめ、全ての人の日常生活を支える役目を担っており、その役割は一層重要となっています。また、SDGsの観点から環境負荷の少ない公共交通の導入や、自家用車から、Co2 排出量の少ない公共交通や自転車などの交通手段へと誘導していくことが求められています。

区はこれまで、区内を移動するあらゆる人にとって、「わかりやすく、利用しやすい公共交通網」を実現するため、新金線の旅客化や地下鉄8・11号線の延伸、メトロセブン建設の実現に向けた取組を進めるとともに、循環バスの導入やグリーンスローモビリティ等を用いた新たな交通システムの検討など、公共交通の充実を図ってきました。また、自転車活用の推進を図るとともに、交通安全の啓発活動や交通結節点である鉄道駅周辺のバリアフリー化に取り組んできました。

今後も引き続き自動運転やMaasなどの先端技術の進展を注視しながら、高齢社会へ対応し、子育てしやすく暮らしやすい環境づくりを目指して、あらゆる人が安全・快適に移動できる交通環境を実現します。

1 新金線の旅客化

区内の南北移動の利便性を高め、沿線地域をはじめとする区内全体の活性化を図るため、今後も引き続き新金貨物線旅客化整備基金を計画的に積み立てつつ、国道6号線との交差方法、車両種別の選定や旅客化施設の検討などについて、関係機関で構成する新金線旅客化検討委員会及び同幹事会において具体的な検討を進め、旅客化の早期実現に向けて取り組んでいきます。

2 バス交通の充実

高齢者をはじめとする区民の移動手段であるバス交通の利便性の向上を図るため、バス事業者やバス沿線地域と連携しながら、循環バスの導入や既存路線の再編を進めるとともに、グリーンスローモビリティを用いた地域主体交通などの新たな移動手段の導入についても引き続き検討を進めていきます。また、バス停の上屋やベンチ、分かりやすいバス運行情報の提供など、バス停の利便施設の整備促進をはじめとした、利用者がバスを安全・快適に利用できる環境づくりを進めていきます。

3 自転車活用の推進

駅周辺の自転車駐車場の整備による放置自転車対策や、歩行者、自転車が安全に通行できる自転車通行空間などを計画的に整備していくとともに、自転車利用者への交通ルール・マナーや自転車保険の加入促進などの普及啓発を強化して、区民が安全・快適に自転車を利用できる環境を実現します。また、利用しやすい自転車駐車場やシェアサイクルの整備などを進めることで、更なる自転車の活用を推進します。

8 「ゼロエミッションかつしか」実現プロジェクト ～脱炭素社会の実現を目指して～

気候変動の影響は深刻さを増しており、猛暑日及び大雨の日数の増加、豪雨による土砂災害や河川氾濫等では甚大な被害が発生しています。令和5年は6月から8月までの全国の平均気温は平年より1.76℃高く、統計を始めた1898年以降で最も高くなるなど、区民の身近な生活に影響が及んでおり、気候変動対策の一層の推進は、喫緊の課題になっています。

そこで、令和2年2月に、本区では、2050年までに温暖化の原因である温室効果ガス（二酸化炭素）の排出量実質ゼロに貢献する「ゼロエミッションかつしか」を実現することを、都内の区市町村に先駆けて宣言しました。

また、令和5年10月に本区からの提案により、2050年までに特別区が連携して特別区全体の排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ特別区」の実現を目指すことを共同宣言しました。宣言に併せて、中小企業の脱炭素化への支援をより効果的に進めるため、メガバンク3行との連携協定の締結や特別区の連携施策を検討する気候変動対策推進組織を設置しました。

本区の具体的な取組としては、令和4年3月に策定した第3次葛飾区環境基本計画において、区内の温室効果ガスの排出量を令和12（2030）年度までに対平成25（2013）年度比で50%削減する目標を設定しました。その達成に向け、区民や事業者等と協働しながら気候変動対策に取り組み、区内で排出される温室効果ガスの削減を図ります。

さらに、各地域がその特性を生かし、持続可能な自立・分散型の社会を目指す「地域循環共生圏」の下、地域間連携により互いの地域資源を補完し、支え合う取組を図ります。

こうした取組により、社会経済状況が変化する中でも、SDGsの理念の下、区民や事業者と共にゼロエミッションへの取組を通じて、持続可能なまちづくりを推進します。

1 地球環境にやさしいエネルギー利用の効率化

助成金制度等の更なる充実を図りながら、クリーンなエネルギーや省エネルギーを区民の生活に取り入れるとともに、事業者の環境経営を支援します。

また、区内最大規模の事業者である区でも、各部が実施しているあらゆる事業の構築に当たっては、ゼロエミッションの実現に係る観点を取り入れるとともに、公共施設における太陽光発電設備の導入やネット・ゼロ・エネルギービル（ZEB）の標準化、庁用車のゼロエミッションビークル（ZEV[※]）への転換などを推し進め、全庁を挙げて区内の環境行動の機運を高めていきます。

さらに、包括協定都市などとの連携により地方の森林保全などに取り組むことで、CO₂削減だけでなく、CO₂吸収量拡大を目指します。

本区の先進的な取組を積極的に区民や区内事業者、他自治体へ発信し、更に連携を深めることにより、持続可能な自立・分散型の社会を目指す「地域循環共生圏」を形成してまいります。

2 資源循環の促進

衣料等の繊維製品を新たな繊維製品へリサイクルする「繊維 to 繊維」の取組や布団類による水平リサイクル、製品プラスチック対策を中心とした、資源循環を区民や事業者とともに推進し、環境負荷を低減します。

9 花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト ～花と緑で彩られ、笑顔と活力あふれるまちづくり～

本区では、花いっぱいのもちづくりを進めており、自治町会や地域団体、商店会など花を愛でる多くの人と協働して、街中を花で彩ってきました。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では大会期間中には競技会場や聖火台周辺をフラワーメリーゴーランドで彩るとともに、大会後はレガシーとして、フラワーメリーゴーランドを東京都に寄贈した上で有明聖火台周辺に設置しました。

街中に花のあふれるまちは、住む人、行き交う人に憩いと安らぎを与え、花を育む活動は、人々の自然を大切にする意識を高めます。また、花を介して「人」と「人」とが結びつくことで、対話や交流が盛んになり、様々な形で健康的な生きがいのある、笑顔と活力あふれる持続可能な地域づくりにつながっています。

今後は、花いっぱいのもちづくり活動を更に推進するため、活動の担い手の裾野を個人や家庭単位まで拡大させていくことにより、庭先や住宅街でも花に親しみを持てる空間を構築します。

1 (仮称) 全国みどりと花のフェアかつしかの開催

令和8年度に国や関係機関との連携、地域住民や事業者との協働により「(仮称) 全国みどりと花のフェアかつしか」を開催し、「持続可能な みどりと花のまち かつしか」を全国に発信しながら花と緑の魅力ある公園等を整備し、花いっぱいのもちづくり活動に継承していきます。

2 花いっぱいのもちづくり活動の充実

(仮称) 全国みどりと花のフェアかつしかの開催に向けて、区民の花いっぱいのもちづくり活動への意識を醸成するため、駅前広場、沿道、公園など多くの人が行き交う場所が花で彩られるよう、地域と連携を図りながら取り組んでいきます。

また、花いっぱいのもちづくり活動を更に推進するために、団体への活動支援に加え、個人や家庭からの参加も促すことにより、区民や区を訪れる方が、より身近に花を感じられる空間の創出を目指します。

3 自治体間交流の促進

花いっぱいのもちづくりに積極的に取り組んでいる自治体を招き、シンポジウムを開催するなど、自治体間交流の輪を広げ、花いっぱいのもちづくりの更なる機運醸成を図ります。

10 産業応援プロジェクト ～「事業者が活躍するまち葛飾」の実現～

区内では、これまで伝統工芸職人や、多種多様で高い技術力を持った数多くの中小の製造業者が個性的で人情味あふれる商店街と共に地域経済を担い、区民に多くの雇用の場を提供してきました。しかし、区内の産業は全体的に縮小傾向にあり、区内事業者の高齢化や後継者の確保などの課題が生じています。また、全国的な少子高齢化の進展に伴う生産年齢人口の減少が予測されているため、就業希望の外国人や女性、高齢者などの潜在的労働者の労働を促進しながら、多様な働き方を実現するための制度設計や就業環境を整備していくことが求められています。

また、技術革新が加速度的に進化しており、顧客ニーズに呼応した新しいサービスや商品開発などが求められるなど、産業全体に大きな影響を与えています。こうした状況に対応するためには、区内の事業者や商店街のDX（デジタルトランスフォーメーション）[※]を図っていくことが必要です。

今後は、事業の拡大・発展を目指す区内事業者へのICT[※]環境の整備やDX化支援、経営支援や起業サポートに加え、産学公金の連携によるスタートアップ企業の支援などを行い、区内事業者の新たなイノベーションの創出につなげていきます。また、区内労働者のリスキリング[※]支援や就労を希望する多様な人々が働きやすい環境整備を進め、生活を豊かに楽しめる、にぎわいあるまちづくりを進めます。

1 区内産業の活性化

創業希望者に対する創業前から創業後の経営安定までの切れ目のない伴走支援に加え、産学公金の連携によるスタートアップ企業に対する支援やビジネスコンテスト等の実施により、区内産業の活性化と新たなイノベーションを創出します。

また、区内事業者の優れた製品や技術を国内外に広く発信するために、ECサイトやSNS等を活用した販路の開拓や情報発信の強化に取り組む事業者を支援します。

2 デジタルトランスフォーメーションの実現

事業の拡大・発展を目指す区内事業者に対し、ICT環境の整備やDX化を支援します。また、区内金融機関と連携して、事業者個々の業態や実情に応じた個別相談会を実施するなど、長期的な伴走支援をすることで、区内事業者のDX化を促進していきます。

3 働きやすい環境整備

区内労働者や個人事業主に向けたリスキリング支援の充実や区内事業者の人手不足解消への取組として、外国人や女性、高齢者の方がそれぞれの適性等に応じて多様な働き方を選択できる環境整備を進めます。そして、公共交通網、子育て・介護環境などの充実を図り、誰にとっても働きやすいまちづくりを進めます。

11 「観光・文化のまち葛飾」推進プロジェクト

～惹きつけ、呼び込み、楽しめるまちづくり～

本区では、これまで映画「男はつらいよ」、漫画「こちら葛飾区亀有公園前派出所」、「キャプテン翼」、「モンチッチ」、「リカちゃん」など、区ゆかりのキャラクターを活かした観光事業を実施してきました。近年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光客は減少しておりましたが、水際対策の緩和などにより、国の重要文化的景観に選定された柴又地域や堀切菖蒲園、水元公園、寅さん記念館・山田洋次ミュージアム、郷土と天文の博物館などの施設にも再び多くの人々が訪れるようになりました。

今後は、デジタル技術を活用した観光事業の推進、インバウンドや若年層など新たな観光客層の確保、地域との協働による郷土の資産発掘など、まちの魅力を存分に引き出し、様々な形で広く情報発信することにより、本区の観光と地域経済の回復、更なる発展を図ります。

そして、国内外を含めた本区を訪れる様々な人々が、何度も訪れたいと思えるような取組を進めるほか、区民も一緒に楽しめる観光・文化のまちづくりを推進していきます。

1 本区ゆかりのコンテンツを活用した観光事業の推進

本区ゆかりのキャラクターや歴史、文化、自然などの観光資源を発掘・活用して、国内外に向けて本区の魅力を発信し、本区の認知度やイメージアップを図ります。また、柴又の観光拠点施設や「こちら葛飾区亀有公園前派出所」をテーマとした亀有の観光拠点施設を整備することで、地域全体の魅力や付加価値を高め、インバウンドを含めた新たな観光客の誘客につなげていきます。

2 インバウンドや若年層に向けた取組の強化

ホームページやSNS[※]等を活用した情報発信の強化を図るとともに、位置情報や人流分析といったデータの利活用を検討し、観光客のニーズを的確に捉えることでインバウンドや若年層などの新たな客層の誘客と本区を訪れる観光客の満足度を高めるための取組につなげていきます。

3 文化財・文化的資源の積極的な活用

多くの区民が郷土葛飾の歴史・文化への理解や愛着を深められるよう、地域に根付いた後世に残すべき文化的資源を「地域文化遺産」として保存・記録していきます。また、本区の歴史や文化を区内外の方々から愛されるものとしていくため、文化財や「地域文化遺産」の価値や魅力を積極的に発信していくとともに、観光振興や郷土愛の醸成に向けた活用を進めます。

4 誰もが文化・芸術活動を楽しめる環境づくり

幅広い世代の区民が参加・体験できる文化芸術事業や、地域から文化芸術を発信するアートイベントへの支援を行うなど、区民の誰もが文化芸術活動を楽しめる環境づくりを進めます。

また、学校の文化・芸術部活動の地域移行化を推進し、子どもが文化芸術に触れ、楽しむ機会を確保するとともに、多様な活動に携わることができる機会を創出していきます。

12 公共施設の魅力向上プロジェクト

～利用しやすく安全で快適な施設を目指して～

本区には、総合庁舎をはじめ、小・中学校、保育所などの子育て支援施設、地域コミュニティ施設、文化施設、スポーツ施設など400を超える公共施設があります。公共施設の効果的・効率的な活用を図りながら、将来世代に良好かつ適正に引き継いでいくことができるよう、職員一人一人が意識を向上させ、適切にマネジメントしていくため、令和5年3月に「葛飾区公共施設等経営基本方針」を改定しました。

今後は、改定した公共施設等経営基本方針に基づき、施設の計画的・予防的な修繕を実施し、施設の長寿命化を図りつつ、ハード・ソフト両面から、施設の使われ方や施設状況のチェックを行います。さらに、社会状況や区民ニーズ、行政需要等を踏まえ建物の用途や使い方を常に見直しながら、使いやすく時代に合った施設の在り方を検討していきます。

全ての公共施設が、適切な行政サービスを提供する「場」として、また、区民が自発的な活動を積極的に行い、地域を元気にし、生活に潤いをもたらす「場」として、さらに、区民の安全・安心を守る「場」として機能するよう、必要に応じて、用途の見直しや民間への移管、周辺との複合化なども図りながら、効果的・効率的な施設経営を進めます。

1 安全に快適に使える施設の整備

公共施設の使われ方や利用実態を把握・分析することで、効果的・効率的な公共施設の運営や区民サービスの向上につなげます。施設を利用する区民の声を聴き、区民ニーズの多様化やライフスタイルの変化に応じた使いやすい施設にします。

2 施設の適正保全・施設の長寿命化の推進

計画的・予防的な修繕を実施し、施設の長寿命化を図るとともに、バリアフリーや省資源・省エネルギー化、防災機能の強化にも配慮しながら適切な保全を行います。

また、施設の状況を適切に把握し、スピード修繕を実施するなど、快適性や機能性の向上に取り組めます。

3 総合庁舎の整備

総合庁舎については、令和4年12月15日に「葛飾区役所の位置を定める条例」を制定し、立石駅北口地区市街地再開発事業[※]によって整備される施設建築物に移転することを正式に決定しました。「安心・安全を支える おもてなしサービスの拠点」という理念の下、令和12年度（予定）の新庁舎への移転に向けて、引き続き「窓口サービスの向上」、「執務環境の整備」、「文書・物品の管理」などについて検討していきます。

また、現庁舎敷地については、立石駅周辺の再開発事業に伴う人口構造の変化や人口増、区民ニーズの変化、周辺公共施設の効果的・効率的な活用に向けた検討状況等を踏まえ、敷地の活用方法等の検討を進めていきます。

13 かつしかファンド活用プロジェクト ～みんなの力で地域課題を解決する活力あるまちづくり～

現在、自治体が主体となり、ふるさと納税の仕組みを活用して賛同者から広く資金を募るクラウドファンディングの取組が全国的に広がっており、各自治体で地域課題の解決に資する様々なプロジェクトが実施されています。

また、地域資源の活用やブランド化など、地方創生等の地域活性化に資する取組を支える様々な事業に対して、クラウドファンディング等の手法を用いた個人の小口投資であるふるさと投資も行われています。

こうした仕組みを活用することにより、地域が抱える課題に対する関心を高めたり、そのプロジェクトを通じて自治体に興味・関心を持ってもらえるといったプロモーションの効果も期待できます。

本区では、ふるさと納税型クラウドファンディングの実施に向けて検討を行い、ふるさと納税と同様にインターネットを介して、プロジェクトに対する賛同者からの寄付を受け付ける体制を整備し、併せて、ふるさと納税型クラウドファンディングを試行実施して検証を行いました。

今後も、より効果的なふるさと納税型クラウドファンディングの実施などについて検討し、みんなが地域課題を解決していく活力あるまちづくりを進めます。

1 ふるさと納税型クラウドファンディングの実施

ふるさと納税型クラウドファンディングを活用し、地域の課題解消や活性化を図ることに加えて、本区の施策や事業をPRする手法の一つと捉え、幅広く取り組んでいきます。

2 クラウドファンディング等の活用支援

本区の活性化に資する様々な事業に対するクラウドファンディングの組成等を支援し、本区の地域資源を活用した独創的な技術やアイデアを活用した活動や事業の発掘・促進を図り、活力ある地域づくりを進めます。

14 スマートかつしか実現プロジェクト ～先進技術を生活の中に～

近年、スマートフォンの普及やネットワークの高速化、生成A I[※]の普及など急速なデジタル化の進展により社会生活環境は大きく変化しています。

国では、人口減少や少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少による労働力不足などに対し、デジタル技術を活用しながら一人一人の幸せをデジタル社会で実現する取組が進んでおり、地方自治体においてもDX[※]の取組を加速させていくことが求められています。

本区では、令和3年10月に「葛飾区デジタル推進計画2021」を策定し、ノーコードツールによる手順のオンライン化やキャッシュレス決済の推進、地域社会のデジタル推進など、デジタル技術を効果的に活用しながら区民サービスの向上や業務の効率化を進めてきました。この間、国の「地方公共団体情報システムの標準化」に向けた移行作業も始まり、今後は個々のシステムの業務改革（BPR）を行いながら、より戦略的にDXを推進し、更なる区民サービスの向上や業務効率化の取組が必要とされています。

今後も「スマートかつしか」の実現を目指して、区民サービスの向上につながる業務改革（BPR）や生成A Iの効果的な活用などにより、区役所業務全体や様々な分野でのDXを推進していきます。また、令和12年度（予定）の新庁舎への移転を見据えながら、デジタル区役所の実現に向けた検討を加速させ、区民の利便性向上や業務の効率化に取り組んでいきます。

1 「行かない」「書かない」「待たない」窓口サービスを実現

積極的に本区のDXを推進していくため、「かつしかDX」の戦略的取組に基づき、利用者視点に立った窓口サービスの実現に向けて取り組みます。

戦略的に取り組む窓口DXでは、「地方公共団体情報システムの標準化」への移行も踏まえ、区役所へ行かないで済むオンライン手続の拡大、申請書を書かないで済む書かない窓口の導入、窓口で待たないで済むインターネット呼び出しサービスや生成A Iの活用などにより、利用者や来庁者に時間や労力を使わせない「行かない」「書かない」「待たない」窓口サービスの実現を目指します。

2 内部業務変革に向けたDXを徹底推進

OCRやRPAなどのデジタルツールを効果的に活用して内部業務の効率化・省力化を一層推進していきます。あわせて、ペーパーレスやFAXレスなどデジタルファーストを推進するとともに、電子データの保存領域の拡張や効率的な働き方を可能にする業務用端末の入替など、新たなワークスタイルに向けた基盤整備にも取り組みます。

また、ノーコードツールやA Iの活用など、デジタル人材として求められる知識やスキルを自主自立して活用することができる職員の育成に取り組むとともに、GovTech東京等と連携して、積極的に高度な専門人材を活用することで、ニーズや課題に対して迅速かつ的確に対応できるデジタルに精通した職場の実現に取り組みます。

3 DXの活用で施策等の付加価値を創造

区民の安全性向上に取り組む防災DXの推進や、区内事業者へのICT環境整備やDX支援など区内産業の活性化に向けた産業DXの推進、データ利活用により区民の健康増進に取り組む健康DXの推進など、様々な分野でデジタル技術の有効活用を図ることで、付加価値の創造に取り組めます。

15 葛飾かわまちづくりプロジェクト ～水辺を舞台としたにぎわいまちづくり～

本区は、江戸川、荒川・綾瀬川、大場川に囲まれ、さらに中央部に中川、新中川が流れ、豊富な河川資源に恵まれており、江戸川や荒川では、河川敷において野球やマラソン大会などのレクリエーション、イベントが楽しめる川となっております。

高砂橋から新宿六丁目付近までの中川においては、国土交通省の「かわまちづくり支援制度」に「葛飾中川かわまちづくり計画」が登録されました。このことにより、ハード面では、水辺の散策路となるテラスや坂路などが整備され、またソフト面では、地域のニーズに対応した河川敷地の多様な利用を可能とする河川空間のオープン化が実現できることとなります。さらには、これまで一定程度制限されてきたお祭りや音楽イベントなどでの活用、民間事業者、商店街などと連携した地域間の交流、観光やインバウンド需要を取り込んだ地域経済の活性化など、河川空間における新たなチャレンジができるようになります。

中川かわまちづくりを契機に、中川以外でも、河川空間のオープン化を進め、それぞれの地区でのイベントやお祭り、様々な活動などを川まで広げることで、他区にはない、葛飾ならではの「かわ」を活かしたまちづくりを進めます。また、区としても組織横断的な連携を図り、全庁をあげて地域の皆様を支援します。

こうした取組により、葛飾区を囲む5つの川が大きな回廊となり、全てのまちがつながることで、河川の利活用が広がり、都市化により失われた昔ながらの川との共存を取り戻し、「かわ」と「まち」を融合した葛飾らしい新たな文化の創造につなげていきます。

1 河川・水辺空間を活用したにぎわいの創出

河川・水辺空間を活用し、周辺の自治町会等の地域団体、地域活動団体や民間企業等が中心となり、これまでの河川利用の制限にとらわれない新しい河川活用を介して、人や地域が交流するにぎわいを創出するため、日常的な活動から非日常的なイベント、拠点や水面を活かしたアクティビティーなど、河川・水辺を活かした地域活動の機運醸成を図ります。

2 河川・水辺空間のオープン化の整備

河川・水辺を魅力的な親水空間として、水辺の散策路となるテラスや飲食を楽しめる拠点整備、災害時だけでなく、イベントにも活用できる船着場整備、水辺を気軽に使うことのできる仕組みづくりなどを通して河川空間のにぎわいの創出を図り、身近に水辺に親しむことができる環境整備を進めます。また、葛飾区が誇るキャラクターや区ゆかりのコンテンツを活かした装飾、河川景観や花を活かした新たなスポット、誰もが身近な場所で気軽に体を動かすことができる空間整備など、河川・水辺を地域活動の舞台としてもらえる魅力ある河川空間を整備します。

3 河川・水辺空間と一体的な公園の整備

河川環境を活かした様々なレクリエーションや、防災活動、地域住民の憩いの場などに活用できる河川・水辺と一体となった公園として、新小岩公園、葛飾あらかわ水辺公園などの整備を進めます。

16 私学事業団総合運動場活用プロジェクト

～スポーツを核としたにぎわいまちづくり～

区では、子どもから高齢者まであらゆる年代の区民がスポーツに親しみ、日常生活の中に運動習慣を取り入れることができる環境づくりを推進してきました。更なるスポーツ振興に向けた環境整備として、また、多様な世代が集う交流拠点となる地域活性化の起爆剤としてスタジアム建設を視野に、まちづくりの検討を進めてきました。

こうした中、本区の南部に位置する私学事業団総合運動場の敷地等の取得に向けて日本私立学校振興・共済事業団と協議を行い、令和5年2月1日に「私学事業団総合運動場の高度化利用に関する基本協定書」を締結しました。土地の取得後は、現施設を引き継ぐ形で、区のスポーツ施設として区民の皆様等の利用に供しつつ、将来的にスタジアムを有する都市計画公園として整備することについても検討を行っております。

スタジアムとして整備することによって、スポーツ振興にとどまらず、区内商業や観光業をはじめとする地域経済を大きく活性化させることができることはもちろん、防災面では大規模避難施設としての機能や備蓄倉庫としても活用できるほか、スタジアムの屋根を活用して屋上緑化や太陽光発電システムなどを搭載することにより環境面からも大きな効用をもたらすことができると期待されています。また、スポーツをする・みる場としての機能だけでなく、各種イベントでの活用や、周辺も含めた面的な複合開発をすることで、地域のにぎわい創出や地域経済の活性化による持続的成長の核としての機能も果たすことができます。

今後は、新金線旅客化や新小岩駅周辺まちづくりとも連動させながら、私学事業団総合運動場敷地の更なる活用について検討を進めます。

1 私学事業団総合運動場運動施設の活用

私学事業団総合運動場については、区の体育施設条例に位置付け、区民の皆様が利用できるスポーツ施設として、区民の健康づくり・スポーツ振興の一層の促進に向け、(仮称)東新小岩運動場として活用していきます。

2 スタジアムの整備に向けた検討

本区のスポーツ施設全体の在り方も見据えながら、将来的な私学事業団総合運動場敷地の活用方策について、条件整理や先行事例の分析などの基礎調査を実施し、様々な整備手法の検討を進めます。また、地域住民に対し検討状況の説明や意見聴取を行っていくとともに、民間事業者や関係団体からも意見を聴取しながら、具体的な機能や配置案、周辺環境への配慮、街づくりとの連携可能性など、スタジアムの整備に向けた検討を行っていきます。

各プロジェクトと関連する政策・計画事業一覧

プロジェクト名	関連する政策	関連する主な計画事業
1 協働推進プロジェクト	政策 20 地域活動をはじめとする全ての政策・施策 【新】地域力向上支援	
2 「健康長寿のまち、葛飾」推進プロジェクト	2 健康 3 医療 4 衛生 6 高齢者支援 7 障害者支援 9 学校教育 12 スポーツ	【新】区民と事業者の健康活動促進事業 高齢者の保健事業 かつしか糖尿病・慢性腎臓病アクションプランの推進 がん対策の総合的な推進 高齢者の介護予防事業 体力向上のための取組 高齢者の健康づくりの推進 障害者スポーツの推進 区民健康スポーツ参加促進事業 スポーツ施設の利用しやすい環境整備
3 共生社会実現プロジェクト	1 人権・多様性・平和 2 健康 5 地域福祉・低所得者支援 6 高齢者支援 7 障害者支援 8 子ども・家庭支援	人権・多様性への理解促進事業 多文化共生社会の推進 精神保健福祉包括ケアの推進 暮らしのまるごと相談事業 成年後見制度を中心とした権利擁護支援の充実 障害への理解と交流の促進 【新】ヤングケアラー等支援事業
4 「子育てするなら、葛飾で」推進プロジェクト	8 子ども・家庭支援	ゆりかご葛飾の推進 【新】産後ケア事業の充実 子ども未来プラザの整備 使いやすい預かり保育の充実 総合的な保育充実支援 学校施設等を活用した放課後子ども支援事業 児童相談の充実 子ども・若者支援体制の充実 子ども・若者活動団体支援
5 学力・体力向上プロジェクト	9 学校教育 10 地域教育	総合的な学力向上事業～次代に活躍する人材の育成～ 教育情報化推進事業 体力向上のための取組 発達障害の可能性のある子どもに対する重層的な支援体制の充実 日本語指導の充実 不登校対策プロジェクト いじめ防止対策プロジェクト 【新】中学校部活動の地域移行

<p>6 危機対応力向上プロジェクト</p>	<p>4 衛生 13 地域街づくり 14 防災・生活安全 16 公園・水辺</p>	<p>感染症対策の強化 空家等対策 東立石地区の街づくり 堀切地区の街づくり 西新小岩五丁目地区の街づくり 民間建築物耐震診断・改修事業 地盤の液状化対策 災害対策本部運営の強化 水害対策の強化 受援体制の強化 女性視点の防災対策推進 【新】避難行動要支援者対策等の充実 災害医療体制の強化 地域防災の連携・強化 防災の意識啓発 防災活動拠点の整備・更新 学校避難所の防災機能の強化 災害時協力井戸設置助成 地域安全活動支援事業</p>
<p>7 安全・快適な交通環境実現プロジェクト</p>	<p>15 交通</p>	<p>自転車利用環境の整備推進事業 自転車駐車場整備事業 新金線の旅客化 地下鉄 8・11 号線及び環七高速鉄道（メトロセブン）建設促進事業 バス交通の充実</p>
<p>8 「ゼロエミッションかつしか」実現プロジェクト</p>	<p>17 環境</p>	<p>区民の環境行動推進 事業者の環境行動推進 区の環境行動推進 資源循環による環境負荷の低減促進 かつしかルール推進事業</p>
<p>9 花いっぱいのもちづくり推進プロジェクト</p>	<p>16 公園・水辺 17 環境</p>	<p>緑と花のまちづくり事業 【新】「（仮称）全国みどりと花のフェアかつしか」の開催</p>
<p>10 産業応援プロジェクト</p>	<p>18 産業</p>	<p>葛飾ブランド創出支援事業 東京理科大学等との産学公連携推進事業 伝統産業販路拡大支援事業 創業支援事業 【新】新製品・新技術開発支援事業 事業承継支援事業 【新】区内中小企業デジタル化支援事業 雇用支援事業 区内産業人材育成支援事業</p>
<p>11 「観光・文化のまち葛飾」推進プロジェクト</p>	<p>11 生涯学習 18 産業 19 観光・文化</p>	<p>伝統産業販路拡大支援事業 寅さん記念館・山田洋次ミュージアムのリニューアル かつしか観光推進事業 【新】亀有・柴又地域観光拠点施設活用推進事業 観光資源づくり事業 文化芸術創造のまちかつしか推進事業 文化財の保存及び活用</p>
<p>12 公共施設の魅力向上プロジェクト</p>	<p>葛飾区区民サービス向上改革プログラム</p>	
<p>13 かつしかファン活用プロジェクト</p>		
<p>14 スマートかつしか実現プロジェクト</p>		

15 葛飾かわまち づくりプロジェクト	12 スポーツ 16 公園・水辺 17 環境 19 観光・文化	川を活かした街づくり 観光資源づくり事業 高齢者の健康づくりの推進 区民健康スポーツ参加促進事業 緑と花のまちづくり事業
16 私学事業団総 合運動場活用プ ロジェクト	12 スポーツ 13 地域街づくり 16 公園・水辺	スポーツ施設の利用しやすい環境整備 計画的な土地利用の推進 新小岩駅周辺開発事業

第2章 SDGsの実現に向けて

1 背景

本区では、令和12(2030)年にSDGsを達成し、もって本区の持続可能な発展を実現するため、葛飾区長を本部長とする葛飾区SDGs推進本部を設置し、SDGsの達成に向けた取組を推進するとともに、区民・事業者等の多様な主体に対し、SDGsの普及・理解促進を図ってきました。

また、令和5年3月には、「葛飾区SDGs推進計画」を策定しました。この計画は、SDGsの達成に向けて本区が更に推し進めるべき取組の方向性を示したもので、本区の持続可能な発展に向けて特に重点的・先行的に進めていく取組を「SDGsかつしか未来プロジェクト」として掲げています。本プロジェクトを着実に推進するため、中期実施計画の中に具体的な事業を位置付けています。

今後、SDGsが目指す経済・社会・環境の全ての面における発展に向け、区自らが取組を加速させるとともに、区民・事業者等の多様な主体との連携・協働をより一層強化し、一丸となってSDGsの達成に向けた具体的な行動を起こしていくことで、誰もが幸せに暮らせる「持続可能な葛飾」の実現を目指していきます。

2 持続可能な開発目標(SDGs)17のゴール

 <p>1 貧困 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。</p>	 <p>2 飢餓 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。</p>
 <p>3 保健 あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。</p>	 <p>4 教育 全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。</p>
 <p>5 ジェンダー ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女子の能力強化を行う。</p>	 <p>6 水・衛生 全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。</p>
 <p>7 エネルギー 全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。</p>	 <p>8 経済成長と雇用 包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。</p>
 <p>9 インフラ、産業化、イノベーション 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。</p>	 <p>10 不平等 各国内及び各国間の不平等を是正する。</p>
 <p>11 持続可能な都市 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。</p>	 <p>12 持続可能な生産と消費 持続可能な生産消費形態を確保する。</p>
 <p>13 気候変動 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。</p>	 <p>14 海洋資源 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。</p>
 <p>15 陸上資源 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。</p>	 <p>16 平和 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。</p>
 <p>17 実施手段 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。</p>	

3 SDGs かつしか未来プロジェクトと関連する計画事業一覧

本区が令和 12 年に SDGs を達成し、その先の未来へ進んでいくために、特に重点的に進めていく取組や新たに挑戦する取組、スピードを上げる必要がある取組を SDGs かつしか未来プロジェクトとしてまとめました。プロジェクトの方向性や関連する計画事業は、以下のとおりです。

プロジェクト名	プロジェクトの方向性
1 未来創出「地元」イノベーションプロジェクト 	先進技術等の活用方法を産学公が共に検討し、金融機関を加えた協働により、新事業を創出する仕組みや持続可能な経営を実現する仕組みを構築
【関連する計画事業】 東京理科大学等との産学公連携推進事業 創業支援事業 【新】 新製品・新技術開発支援事業 【新】 区内中小企業デジタル化支援事業 葛飾ブランド創出支援事業 伝統産業販路拡大支援事業 雇用支援事業 事業者の環境行動推進	
2 まるごと生活支援プロジェクト 	高齢・障害・子ども・生活困窮など、世帯の様々な悩みを総合的に受け止め、誰一人取り残さず、その人らしく地域で暮らしているよう、支援の仕組みを構築
【関連する計画事業】 くらしのまるごと相談事業	
3 子どもの未来サポートプロジェクト 	子どもの権利が保障され、切れ目のない支援により、全ての子どもが地域で健やかに育つ仕組みを構築
【関連する計画事業】 児童相談の充実 使いやすい預かり保育の充実 総合的な保育充実支援 教育情報化推進事業	
4 生き生き人生 100 年プロジェクト 	DX 等の推進により、誰一人取り残さずに健康寿命を効果的に延伸できる仕組みを構築
【関連する計画事業】 高齢者の介護予防事業 区民健康スポーツ参加促進事業 高齢者の健康づくりの推進 学びの機会の充実 川を活かした街づくり 【新】 区民と事業者の健康活動促進事業 区民の環境行動推進	

プロジェクト名	プロジェクトの方向性
5 「ゼロエミッションかつ しか」加速プロジェクト 	省エネ技術の導入の推進やカーボンオフセット等の活用により、令和 12 年のカーボンハーフや令和 32 年のカーボンニュートラルが達成される仕組みを構築
【関連する計画事業】 区的环境行動推進 区民の環境行動推進 事業者の環境行動推進 資源循環による環境負荷の低減促進	
6 スマートムーブ プロジェクト 	環境負荷の少ない公共交通が拡充され、誰もが便利に区内を移動できる仕組みを構築
【関連する計画事業】 新金線の旅客化 バス交通の充実 区民の環境行動推進	
7 区民を守る防災未来 プロジェクト 	避難所運営や避難行動支援におけるDX等の推進により、災害時にも誰一人取り残さない仕組みを構築
【関連する計画事業】 災害対策本部運営の強化 水害対策の強化 学校施設の改築 【新】 良質な住宅の確保 受援体制の強化	